

フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



「和」と「輪」

院長 加藤 文彦

新年あけましておめでとうございます。皆様には穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、去年は有名な大企業の不祥事が続きました。前半では大手電機メーカーが社長3代にわたって粉飾決算を行ったこととか、世界的大手エアバッグ・メーカーの製品不具合(爆発)が話題となりました。後半では大手建設業者及び化学製品メーカーによる建築物の杭打ち工事データが捏造されており、マンションが傾いたことが話題となりました。今や「メイド・イン・ジャパン」は高品質の代名詞かと思うのですが、どうしたことでしょうか？

日本は昔から「和」の世界と言われます。有名な聖徳太子の17条憲法の第1条が「和を以て貴しとなす」です。「和」とはパツと見た目には争い事を避ける、あるいは嫌う、心地よい言葉のように見えます。しかし、ここで注意しなければならないことが日本の歴史や文化を顧みると浮かんできま

す。すなわち、「和」が「輪」と同一化されている事例が多々あります。この「輪」とは2014年まで放送されていた「笑っていいとも」の「テレフォン・ショッキング」で使われていた「友達の輪」という言葉をイメージして戴くのが良いかと考えます。そして、自分がどれくらいの大きさの「和(輪)」の中にいるか…という事を常に心しておくべきかと考えます。家族や友人など少人数の「和(輪)」の中？会社や同業者の「和(輪)」の中？その「輪」の中で「和」が保たれていても、「輪」の外から見たら非常識や、違法なこととなっているかもしれません。前述の大企業不祥事は会社の一部職員の「和(輪)」からの産物なのではないでしょうか？すなわち、「赤信号、みんなで渡ればこわくない」です。

世の中には皆で守るべきものとして、法や規則があります。これにて、大きな「和」が保たれるようになっていきます。当院の職員もこの大きな「和」の中で、皆様との身近な「和」に心掛けますので、本年も宜しくお願い申し上げます。

今月号のお知らせ

- ①「和」と「輪」
..... 院長 加藤 文彦
- ②春に向けての対策
..... 耳鼻咽喉科医師 中村 紗矢香
- ③臨床検査技師の仕事
..... 中央検査部長 三宅 俊宏

- ④認定看護師紹介
..... 集中ケア認定看護師 杉谷 恵里
- ⑤第10回 市民健康セミナーを終えて
..... 形成外科医師 宮田 知里
- ⑥研修センター通信
- ⑥クリスマスコンサート 第2回糖尿病週間イベント
- ⑥当院の理念・当院の基本方針



春に向けての対策

耳鼻咽喉科医師 中村 紗矢香

わが日本では戦後の大量植林で一斉に植えられたスギ・ヒノキが成長し、近年急激に花粉症患者が増加しています。国民の4割がスギ花粉症と言われている現在、この春のシーズンを迎えるのが憂鬱な方も多いのではないのでしょうか。

そもそも花粉症とは、鼻粘膜が同じ種類の花粉に何度もさらされることで、その花粉を構成するタンパク質(抗原)に特異的な抗体が体内で作られ発症します。次に同じ花粉が鼻粘膜に付着した際、ヒスタミンやロイコトリエンと言った化学物質が放出され、鼻汁、くしゃみ、鼻のかゆみといった症状を引き起こします。

すでに花粉症と診断されている方は、花粉が鼻や目の粘膜に付着するのを防ぐことが大切です。マスクや眼鏡の着用や、花粉が多い日は布団を干さないなどの対策が必要です。花粉情報を確認出来るサイトやアプリ(キョーリン花粉症ナビ <http://www.kyowa-kirin.co.jp/kahun/>など)などを

活用しましょう。

花粉症かどうかまだ分かっていない方は、ぜひ病院で診断してもらおう事をお勧めします。採血検査でどんな花粉にどれくらい反応するかがわかります。花粉の種類によって発症する時期が異なりますので、対策を立てやすいでしょう。

病院でできる治療としては、内服薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー剤)や外用薬(点鼻薬、点眼薬)などがあります。また、2014年よりスギ花粉症に対する舌下免疫療法が開始されました。花粉の液を少量ずつ毎日暴露することで体をならし、アレルギー反応を起こさせないようにするという方法です。最低でも2年以上は継続することで効果を得ることが出来ると言われていますが、8割のスギ花粉症の方が症状の改善を感じる事が出来たというデータが出ております。また、その他当院では鼻の粘膜をレーザーで焼灼する治療や、花粉に反応する神経を切断する手術(後鼻神経切断術)なども行っております。

2015年西日本では気温の高い夏が短く、2016年春の飛散量は例年より少ない予想ですが油断はできません。ぜひ症状が出現する前に当院耳鼻咽喉科にご相談ください。



★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さんの建設的な意見を反映する広場として発行しています。



技師



臨床検査技師の仕事

中央検査部長 三宅 俊宏

臨床検査技師をご存知でしょうか？
臨床検査技師は医師の指示のもと各種検査を行なう医療技術者です。臨床検査とは患者さんの身体の状態や病気の原因、重症度や緊急性、治療効果などを評価するために行う検査です。臨床検査には人体から採取した血液、尿、組織等の分析などを行う「検体検査」と、心電図検査や超音波検査など身体から直接情報を記録しその状態を調べる「生理検査」があります。



検体検査

一般検査（尿）	尿にタンパクや糖などが混ざっていないかどうかを調べます。腎臓や膀胱の機能がわかります。
血液検査	血液中の血球成分（白血球・赤血球・血小板）の数や形、働きを調べます。貧血や白血病など血液の病気がわかります。
生化学検査	血液中の酵素、脂質、糖質、無機質、ホルモンなどを測定し、各種臓器の機能を調べます。
病理細胞検査	臓器や組織の一部から標本を作り、顕微鏡で観察してガン細胞などの診断を行う検査です。
微生物検査	採取した検体（血液・尿・便・喀痰など）を培養して、病気の原因となる細菌を見つけ、薬に対する効き具合を調べます。
輸血検査	輸血を行なうために必要な血液型検査や輸血用の血液が適合しているかを調べます。輸血用血液製剤の保管管理なども行います。

生理検査

超音波検査	超音波を用いて体内の臓器を写し、異常の有無を判断します。肝臓・胆嚢・脾臓・腎臓・心臓・体表・血管・子宮や胎児まであらゆる臓器の観察に用いられます。
心電図検査	心臓の脈の乱れや狭心症などの病気がないかを調べます。
脳波検査	頭皮に電極を付け、脳の電気信号を脳波計で記録して、脳の働きやてんかんの診断、脳死判定などに用いられます。
呼吸機能検査	肺活量など呼吸器の機能測定を行い、肺や気管支の状態を調べます。

ここに紹介した検査は代表的なものであり、他にも多種多様な検査を行っています。中央採血室では臨床検査技師が採血業務を行っており、精度の高い検査を維持するよう努めています。また、患者誤認防止のために患者さんの氏名と生年月日を確認させていただいておりますのでご協力をお願いいたします。

最後に私たち臨床検査技師はチーム医療においても専門性を活かし、臨床検査の専門家として努力してまいりますので、よろしくをお願いいたします。

看護師



認定看護師紹介

集中ケア認定看護師 杉谷 恵里

『集中治療室』と聞くと実際に入院した事はありませんが、数ある医療ドラマで一度は見たことがあるのではないのでしょうか。私の所属するICU・CCU病棟に入院する患者さんは、今皆さんの頭の中に浮かんだテレビドラマのワンシーンのような場所で多くの機械に囲まれて、日常とはかけ離れた環境にいます。

集中ケアとは、生命の危機的状態にある患者さんとその家族を対象として、心臓や肺、脳や腎臓といった臓器に機能障害があり、多くの医療機器を必要とする患者さんの回復を支援していく事です。集中ケア認定看護師である私の役割は、そういった患者さんの生命を守るとともに、患者さん及びその家族に応じた苦痛緩和や、精神的ケアを提供し、急性期から退院後の生活を見据えたりハビリなどの看護実践を行っていくことです。また、集中治療室のスタッフが継続して患者さんや家族へ、より良い看護実践が行えるよう必要に応じた教育や支

援を行っています。

看護師界の有名人といえばナイチンゲール。100年あまり前、ナイチンゲールは『看護がなすべきこと、それは自然が患者に働きかけるのに最も良い状態に患者を置くことである』と言っています。医療は100年前とは比べものにならないほど変化し、専門性や高度化が進み、看護師も100年前よりは多くの事が求められます。しかし今も昔も看護師の1番の役割は、患者さんの生きる力(生命力)を最大限に引き出すために力を貸すことです。そして2016年現在でも集中治療室だからこそ、そんな基本的な看護を1つ1つ丁寧にやっていく事の重要性を日々感じています。

ICU・CCUの看護師は、少し寂しいですが患者さんに忘れられてしまう事が多いです。それでも患者さんが一般病棟に移り、リハビリへ通っている姿や、「元気になりました」と訪ねてくださった時には、逆に私達が元気をもらえます。





医師



第10回市民健康セミナーを終えて

形成外科医師 宮田 知里

平成27年11月14日(土) 中部ろうさい病院講堂にて第10回市民健康セミナー『がん医療の最前線』が開催されました。一昔前には困難とされてきた治療が医療の進歩により可能になる中、いったいどのような治療がどのように行われているのかと疑問に思われる方も多いのではないのでしょうか。今回のセミナーではそのほんの一部ですが、臨床で行われている最前線を分かりやすく知る事ができ、約200名もの方にご参加いただきました。

最初に『頭頸部がんについて』と題して当院の耳鼻咽喉科部長安藤篤先生が講演されました。一般的にはあまり聞きなれない頭頸部がんという言葉ですが、写真や統計などで視覚的に理解する事ができました。男性に多く、喫煙・飲酒ががんのリスクを高めると強調され、会場の皆さんの中には耳が痛いと感じる方がいたのかもしれませんが、今回の講演で少しでも多くの方が気をつけていただければそれだけでも価値のある講演であったと思います。やはり何よりも早期発見が重要で、飲食時のつかえ・止まらない鼻血・声がかすれるなどの症状があれば耳鼻科受診をするようにと締めくくられました。

次に名古屋市立西部医療センター陽子線治療科副部長の岩田宏満先生より『陽子線治療の現状と今後の展望』についてお話がありました。陽子線というあまりなじみの

無い分野ではありますが、国が力を入れ投資している最先端の治療とのことで多くの方が熱心に傾聴・質疑応答されていました。放射線治療は副作用が多く、大変だと聞いたことがある方もいらっしゃると思われます。しかし陽子線をさまざまな工夫をして当てることでその副作用を最小限に減らすことができ、かつ放射線の力を最大限発揮することが出来るということ、動画や原理とともに分かりやすくお話されました。今後臨床で行われる機会も増えてくるだろうとのことで皆さん期待を込めて聞いていた様に思われました。

以上が今回の内容になりますが、がんの治療は患者さんそれぞれに一番合ったものを選択していくことが重要となります。今回の講演で少しでも頭頸部がんと陽子線治療を身近に感じていただけたらと思います。



>> 研修センター通信 <<

臨床研修評価について

寒い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。当院は2月26日に実施される「臨床研修評価」の更新審査受審に向けて着々と準備を進めている最中です。「臨床研修評価」とは、国民に対する医療の質の改善と向上を目指すため、臨床研修病院における研修プログラムの評価等を行い、臨床研修プログラムの改善、良質な医師の養成への寄与を目的として設立された「NPO法人卒後臨床研修評価機構」という

第三者評価機関による評価のことです。当院は、平成23年3月に初めて受審し認定を受けました。今回で受審は3回目となります。



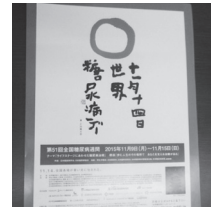
評価を受けることで研修の質を向上させ、皆様が求める良い医師を輩出できる病院であるように、病院一丸となり日々精進していききたいと思います。

【第2回糖尿病週間イベント】

日時：平成27年11月13日(金)

場所：2階講堂・正面玄関

11月14日は世界糖尿病デーです。当院では11月13日にDST(糖尿病サポートチーム)を中心に糖尿病週間のイベントを行いました。午前中は2階講堂で医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師による公開糖尿病教室、午後は正面玄関で栄養に関するスタンプラリーや血糖・InBody測定、医師のコンサートなど盛りだくさんの内容でしたが、昨年に比べ参加者も増え、糖尿病に関する興味を持っていただけだと思います。来年も、より多くの方に参加していただけるような楽しい企画を考えていきたいと思います。



【クリスマスコンサート】

日時：平成27年12月24日(木) 場所：正面玄関

12月24日にフルートアンサンブルによるクリスマスコンサートが正面玄関ロビーにて行われました。当日患者さんには鈴が配布され、華麗なフルート演奏に合わせながら一緒に鈴を鳴らしたり、合唱したりと、演奏者の方々と楽しい時を過ごしました。さらに、ボランティアさんから患者さん一人ひとりにクリスマスプレゼントが用意され、嬉しそうな患者さんの笑顔に出会えるクリスマスイベントとなりました。



当院の理念
納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

～ 編集後記 ～

暖冬の影響で暖かい新年の幕開けとなりました。皆さまはどのような抱負を掲げられたでしょうか。私たちは医療情勢の変化と地域の皆様のニーズに応えられるよう常に進化する病院でありたいと思っています。さて、このフィリアレターは今年で創刊15周年になります。さらにわかりやすく読みやすい広報誌にするよう頑張ります。進化するフィリアレターにご期待ください。(MS)